

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鹿児島大学

1 全体評価

鹿児島大学は、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第3期中期目標期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、グローバルな視点を有する地域人材育成の強化等を基本目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学長による県内全市町村長との意見交換を実施するとともに、全学部における国際バカロレア入試の実施を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 鹿児島商工会議所との連携による「就活応援フェア」（107社参加）や、鹿児島銀行との共催による「地元企業との意見交換会」等、県内への就職を促進するための取組を実施するとともに、全学年対象の業界・職種研究セミナーを28回開催し、平成27年度の1.8倍となる467名の学生が参加している。（ユニット「地域人材育成及び地域連携の推進」に関する取組）
- 欧州獣医学教育認証の取得に向けて、産業動物診療拠点となる大動物診療センター及び大隅産業動物診療研修センターを整備しているほか、共同獣医学部の自己評価報告書の平成28年度改正版を作成してEuropean Association of Establishments for Veterinary Education関係者による非公式訪問審査を受審している。（ユニット「欧州獣医学教育認証取得」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載26事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学長による県内全市町村長との意見交換の実施

地域活性化の中核拠点として、地域のニーズを大学運営に反映するため、学長が鹿児島県内の全43市町村を訪問し、首長と意見交換を行っている。各市町村からは、地域の子供たちとの交流促進や自治体への優秀な人材の輩出等、大学に対する具体的な要望や、鹿児島大学が地域の大学であるとの意識が高まったとの反応が示されるほか、訪問をきっかけとして自治体との連携による学生の地域インターンシップの取組が開始されるなど、地域との連携が促進されている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 地域への情報発信の強化による附属動物病院収入の増

附属動物病院において、伴侶動物にかかる症例数を拡大し、増収を図るため、鹿児島県愛護センターとの共同開催による市民セミナー及びペット相談会を全6回開催するなど、地域への情報発信を強化した結果、附属動物病院全体で平成28年度の診療収入額は目標値に対して1,057万円増の1億6,213万円となっている。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載18事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ クロスアポイントメント制度の活用によるセキュリティ人材の確保

クロスアポイントメント制度を活用し、民間企業からサイバーセキュリティに関する専門家1名を特任教授として採用している。同教授は新たに設置したサイバーセキュリティ戦略室長として総合的戦略の確立や最新の技術動向等の調査、インシデントへの事前対策及び事後対応等の業務を行っているほか、共通教育科目（情報セキュリティ入門）を担当して学生に対する教育活動に従事しており、民間企業のノウハウを生かして学内の情報セキュリティの強化に向けた取組が実施されている。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 全学部・学科等における国際バカロレア入試及び外部英語試験の導入

実現力や主体的に学び考える力などを備えた人材やグローバル人材を育成するため、平成29年度入試において、国際バカロレア入試を全学部で実施するとともに、国立大学として初めて外部英語試験を全学部・学科等の入試で導入している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 地域医療を支える看護師の育成

地域医療を支える看護師の育成に向けて、看護師の特定行為研修を推進するため、看護師特定行為研修センターを設置し、九州の国立大学病院として初めて特定行為研修指定研修機関として指定を受け、7名（うち他施設からの受講者4名）の研修生に対して、病院長のリーダーシップの下、各分野の医師、医療職員、事務部等が協力して研修指導等を行い、7名全員が修了している。

（診療面）

○ 医科歯科連携による医療提供体制の強化

医科の全身麻酔手術における術後肺炎に代表される肺合併症等の予防、軽減を主目的とした医科歯科連携強化の一環として、歯科口腔ケアセンターが病院の2診療科（消化器内科と血液・膠原病内科）と新たに連携して、周術期口腔機能管理対象症例について入院時から関与できる体制の強化等に取り組んだ結果、歯科口腔ケアセンターに医科から紹介を受けた新規の患者数は1,229件（対前年度比210件増）となっている。

○ 地方自治体との連携による一類感染症に対する医療体制の構築

鹿児島県で唯一の第一種感染症指定医療機関としての中心的役割を果たすべく、鹿児島県及び鹿児島市保健所とともに一類感染症対応の合同訓練を行い、地方自治体との連携強化を図り、一類感染症患者発生時における医療体制の構築を推進している。

（運営面）

○ 離島における地域医療の充実に向けた取組の推進

病院と瀬戸内町において包括連携協定を締結し、離島での医療福祉を支える人材育成や産業振興、ネットワーク環境構築等のために連携・協力する体制を構築するなど、地域医療の充実に向けた取組を推進している。

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鹿児島大学

1 全体評価

鹿児島大学は、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第3期中期目標期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、グローバルな視点を有する地域人材育成の強化等を基本目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、総合教育機構の設置や総合動物実験施設がAAALAC認証取得するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 法文学部については、2学科5コースからなる新たな法文学部を発足させ、学科やコースの枠を越えた「特色ある教育」などを内容とする新カリキュラムによる学生の教育を開始しているとともに、教育学部については、学校教育教員養成課程において定員200名、3コース（初等教育コース、中等教育コース、実技系初等中等教育コース）からなる新しい体制のもとで教員養成を開始しており、大学院においては、教育学研究科に学校教育実践高度化専攻（専門職学位課程）を設置するほか、平成30年4月に山口大学との間で、共同獣医学研究科を設置することとしている。（ユニット「大学教育改革」に関する取組）
- 地域活性化に資するグローバル人材育成を目的とする「鹿大『進取の精神』支援基金」の学生海外派遣事業に、新たに「中期派遣留学」を設けて21名を支援し、同基金による日本人学生海外派遣総数を107名としたほか、進取の精神グローバル人材育成プログラム(P-SEG)グローバル人材育成ロードマップにおける周知などを図った結果、平成29年度に海外へ派遣した日本人学生の総数は、294名（平成26年度比1.11倍）となっている。（ユニット「グローバル教育の取組」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 寄附金の獲得に関する取組

学長自ら県内企業や卒業生等を訪問し、寄附の依頼を行うなど、精力的に財政基盤の強化を図る活動に取り組んだ結果、永続的な教育研究支援等に資するようとの趣旨で、卒業生で名誉博士でもある稲盛和夫京セラ名誉会長から、京セラ株式100万株（寄贈時時価約80億円相当）の寄贈を受けており、今後、当該寄附を「基金」化し、株式の果実等により、鹿児島大学21世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業「UCL稲盛留学生」など学生の教育支援等の更なる充実を図ることとしている。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載２事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成 29 年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 情報セキュリティ対策に係る自己点検・監査の実施

情報セキュリティ監査について、「平成29年度業務監査（情報セキュリティに関する監査）」として、情報セキュリティポリシー等の遵守状況に関する監査を、山口大学の職員を外部監査員として加え、実地監査を実施しているほか、山口大学の平成29年度業務監査（情報セキュリティ監査）に、職員２名を監査員として派遣し、実地監査を実施するとともに、監査に関するスキルの向上を図っている。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○「総合教育機構」の設置及び学部横断型「地域人材育成プラットフォーム」の運用開始

平成29年4月、学士課程全体の教育の質保証、共通教育の実質化と高度化、地域人材の育成を目的に、総合教育機構を設置し、共通教育科目と専門教育科目の双方から成り、地域人材を輩出するための全学的な学部横断型の教育プログラムの基本構造・枠組みとして「地域人材育成プラットフォーム」の運用を開始し、地元就業を目的とした人材育成を行う「かごしまキャリア教育プログラム」と鹿児島という地域が有する環境や伝統工芸品等様々な資源に対する理解を深める「かごしま地域リサーチ・プログラム」を稼働させており、プログラムのスタートアップ科目の受講者数は、2つのプログラムを併せて計155名となっている。

○ 総合動物実験施設「AAALAC」（国際実験動物ケア評価認証協会）認証取得

共同獣医学部の総合動物実験施設が、米国AAALAC International（国際実験動物ケア評価認証協会）の国際認証を受けており、同施設で行われる動物実験の質の適切さを国内外にアピールでき、米国の予算による動物実験を誘致できるなど国際水準の動物福祉や動物実験倫理を実践することができるとともに、国際水準の動物福祉や動物実験倫理を実践することで、臨床分野やライフサイエンス分野で活躍する獣医師を育てるための教育を実施することが容易になっている。

○「南九州・南西諸島域共創機構」を設置

南九州・南西諸島域の各種政策・課題事象及び学内研究成果等の情報の一元化並びにインターフェイス組織の整備充実を目的とする「南九州・南西諸島域共創機構」を平成30年4月から設置することとし、産学官連携推進センターとかごしまCOCセンターを統合した「産学・地域共創センター」においては、「オープン実証ラボ」の整備等によって、持続性のある地域イノベーション・エコシステムの構築を目指す体制を整備することとしている。

附属病院関係**（教育・研究面）****○ 地域で活躍する訪問看護人材の育成**

鹿児島県委託事業「地域における訪問看護職等人材育成支援事業」において、6 地区 12市町村21事業に44名の看護師を派遣し、看護職員を対象とした技術指導等を実施（医療従事者及び地域住民延べ647名が参加）するなど、離島地域で活躍する訪問看護人材の育成に貢献している。

○ 卓越した医師主導治験の推進

前年度から継続して2件の医師主導治験を実施しており、特に「肉腫への革新的医薬実用化を目指した独自開発の増殖制御型アデノウイルスの医師主導治験」においては、独自開発した基礎的シーズであり、再生医療等製品である治験製品の製造、品質、非臨床・臨床試験の全体的なマネジメントを病院治験管理部門が再生医療分野と共同で実施している。

（診療面）**○ 院外処方せんに検査値を開示し連携強化**

患者に安全で安心な薬物療法を提供するため、地域の保険調剤薬局と連携し、患者の身長・体重・体表面積並びに検査値の一部を、処方鑑査に必要な情報として、院外処方せんに掲載する取組を開始し、これを契機に保険薬局薬剤師向けの検査値勉強会を開催して、123名の保険調剤薬局の薬剤師が参加するなど、地域の薬剤師との連携を強化している。

（運営面）**○ 災害派遣精神医療チーム（DPAT）の指定**

自然災害等の大規模災害時に鹿児島県知事の要請に基づき、被災地域において専門性の高い精神科医療の提供、精神保健活動の支援を行う「鹿児島県災害派遣精神医療チーム（DPAT）」登録病院として県から指定されている。

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鹿児島大学

1 全体評価

鹿児島大学は、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第3期中期目標期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、グローバルな視点を有する地域人材育成の強化等を基本目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、南九州地域の産業振興、環境の保全等に貢献するため「南九州・南西諸島域共創機構」を設置するとともに、6か国語を学べる外国語サロンの運用を開始するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 外国語の活用能力を高めたい意欲的な学生を対象に、6か国語（英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、中国語、韓国語）について学べる外国語サロン「LOL（Language Out Loud）」の運用を開始している。LOLは学外から招へいするゲスト講師によるきめ細やかな指導・助言や学生アルバイトによるサロン運営の補助などにより、より質の高い異文化交流の学修機会を提供することが可能となっており、平成30年度の延べ参加者数は2,391名で、平成29年度後期の847名から大幅に増加している。（ユニット「グローバル教育の推進」に関する取組）
- 共同利用・共同研究拠点における大学間のネットワーク化を目指し、鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターと熊本大学エイズ学研究センターが統合し、ヒトレトロウイルス学共同研究センターの設置を決定している。新しい研究センターは、両大学の資源や強みを持ち寄ることで、異分野のウイルス研究領域を再編成し、ウイルスの増殖抑制から排除へ転換する新しい研究領域を創設することを目指している。（ユニット「大学の強み・特色を活かした学術研究の推進」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 男女共同参画の推進

妊娠、育児、介護・看病等期（ライフイベント期）の研究者に対し、研究活動等を補助する研究支援員を配置する「研究支援員制度」の性別による支援対象の制限を撤廃し、ライフイベント期の全ての研究者を対象とするよう制度改正を行っている。また、複数部局の女性研究者により設置した「鹿児島大学Women in Science for Health研究推進ワーキンググループ」の企画により、国際シンポジウムを開催し、女性・若手研究者の国際的研究の促進とダイバーシティ研究環境の形成を推進している。結果として、平成31年3月における女性研究者の割合は20.1%、役員に占める女性の割合は11.1%、管理職に占める女性の割合は14.5%となっており、中期目標で掲げている令和2年度までに達成すべき目標をすでに超えている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 南九州・南西諸島域共創機構等の設置

島嶼を抱える鹿児島を中心とする南九州地域の産業振興、医療・福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上等、地域社会の発展と活性化に貢献するため、南九州・南西諸島域の各種政策・課題事象及び学内研究成果等の情報の一元化並びにインターフェイス組織の整備充実を目的とする「南九州・南西諸島域共創機構」を設置している。機構内に、学内と学外との連携協働を円滑かつ機能的に推進するため、産学官連携推進センターとかごしまCOCセンターが有する機能を整理・集約する形で「産学・地域共創センター」を設置し、持続性のある地域イノベーション・エコシステムの構築を目指す体制を整備している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 特定看護師の育成と活用

平成28年度から看護師特定行為研修が開始され、平成30年度までに10名の研修修了生が誕生しているが、平成30年度には手順書の承認方法や研修・技術確認、医師や看護師との連携、勤務体制等を整備し、合計3区分11行為の特定行為を実施できるようになり、30名の患者へ延べ97件の特定行為を実施している。併せて、急変後の事例検討や看護師教育に携わり、医師不在時のタイムリーで適切な対応や患者の重症化予防及び看護の資質向上を推進している。

（診療面）

○ がんゲノム医療の推進

平成30年3月に、がん患者の遺伝子を調べて最適な薬や治療法を選択する「がんゲノム医療」が実施できる連携病院として承認されるとともに、ヒトゲノム遺伝子解析センターを設置し、がんゲノム診断外来及びがんに関連するゲノム解析と研究開発を推進している。

（運営面）

○ 病院収入の増収に向けた取組

新たに歯科改革プロジェクトチームや歯科経営改善会議を設置し、病院収入の増収に向けて、歯科の経営合理化を推進するため改革を進めている。

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鹿児島大学

1 全体評価

鹿児島大学は、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第3期中期目標期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、グローバルな視点を有する地域人材育成の強化等を基本目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、欧州獣医学教育機関協会(EAEVE)による認証を取得するとともに、「産学・地域共創センター」を中心に、持続性のある地域イノベーション・エコシステムの構築を目指す体制を整備するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について)

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 地元就職支援について、県内8大学等による共同事業として鹿児島県の有力な産業分野である「食と観光」関連産業分野を含む企業への「地元企業よかところ発見バスツアー」(4コース)(114名参加)を実施している。また、地元企業に特化した各種イベント(県内企業延べ141社・参加学生延べ1,721名)を実施するとともに、留学生の地元就職支援として、鹿児島商工会議所と連携し、留学生と地元企業との意見交換会を開催している。(ユニット「地域人材育成及び地域連携の推進」に関する取組)
- ヒトレトロウイルス学共同研究センター(鹿児島大学の「難治ウイルス病態制御研究センター」と熊本大学の「エイズ学研究センター」を統合・再編し、平成31年4月1日に両大学が合同で新たに設置)において、鹿児島大学と熊本大学間で異なる規則等について協議し、共通の規則の制定や評価基準の共通化を実施するとともに、大型機器の共同利用システムを開発している。また、人事面に関して、両大学間のクロスアポイントメントを4名の教員で実施しているほか、トランスレーショナルリサーチ部門の特任教授及び特任准教授を決定している。(ユニット「大学の強み・特色を活かした学術研究の推進」に関する取組)

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 新合同センター「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」の設置による研究教育の拠点化

鹿児島大学の「難治ウイルス病態制御研究センター」と熊本大学の「エイズ学研究センター」を再編・統合し、平成31年4月1日に難治性ウイルス感染症の克服を目指す「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」を設置し、研究教育の拠点化を図っている。またヒトレトロウイルス学共同研究センターキックオフシンポジウムを開催し、国内外からの著名な研究者による特別講演と両キャンパスの研究紹介を実施している。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

○ 入学者選抜における出題ミス

平成31年度大学院入試及び令和2年度医学部推薦入試における出題ミスが発生したことにより追加合格の措置を実施していることから、チェック体制の見直し等、再発防止に向けた組織的な取組を実施することが望まれる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ アジア初となる欧州国際水準の獣医師育成教育機関に認定

鹿児島大学共同獣医学部及び山口大学共同獣医学部は、獣医学教育の欧州国際認証である欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）認証を令和元年12月にアジア地域として初めて取得し、国際的にボーダーレス化が進んでいる疾病の制御や食の安全に関わる獣医師の養成機関として、アジアにおける獣医学教育改革を牽引していくこととしている。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 大学院における英語による授業のみで修了可能なコースの開設

研究内容に関心を持ちつつも日本語力に課題があることから留学が難しい外国人の入学を促す効果及び自身の研究能力のみならず英語力も向上させたいと考える日本人学生にとって留学生と協働で学ぶ機会の確保を目的として、大学院において英語による授業のみで修了可能なコースを開設している。令和元年度は6つのコースを開設し、9か国から16名が入学している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 看護職の地域支援

行政・看護協会との連携による助産師の偏在化緩和・資質向上を目的とした「助産師出向支援事業」へ参加し、令和元年度は、新たに一定期間地域の訪問看護ステーションへ出向する「訪問看護理解・促進事業」へ3か月間看護師を派遣するなど、行政や市町村と連携し、地域のニーズに応じた支援を実施している。

○ 国際水準の卓越した研究の推進

AMED革新がん事業として、がんへの遺伝子・ウイルス治療薬として独自開発したSurv.m-CRA-1について、鹿児島大学病院で骨軟部腫瘍に対してFirst-In-Human（世界初ヒト投与）医師主導治験を実施・終了するなど臨床研究の取組を行っている。

(診療面)

○ がん医療に対する取組の推進

「かごしま県がんサポートブック」による県内のがん治療に関する情報提供や啓発活動、鹿児島県初の「緩和ケア提供体制に関するピアレビュー」の実施による緩和ケアの質向上、がん遺伝子診断外来を開設し網羅的がん遺伝子検査を開始するなどの取組により、がんゲノム医療拠点病院に指定され、がん医療に関する取組を推進している。

(運営面)

○ 鹿児島大学病院基金の設立

更なる先進的医療の推進、優れた医療人の育成、地域医療への積極的な貢献等、県内唯一の特定機能病院及び国立大学病院としての使命を果たしていくため、令和元年10月に「鹿児島大学病院基金」を設立している。